

丹波市男女共同参画センターだより



「できない」から「できる」に 北尾 真理子

ひょうご仕事と生活センター 上席相談員
株式会社 ダイバーシティオフィス KITAO 代表
丹波市男女共同参画審議会委員

2014年から上席相談員をさせていただいておりますひょうご仕事と生活センターのモットーは、「できない」から「できる」にです。

同センターが設立されて間もない約10年前は、企業や団体を訪問して『社員の方々のワーク・ライフ・バランス実現推進に取り組まれますか』と提案しても、『うちは中小企業だし、社員も少ないし、生き残るためには、受注したら多少の無理をしても納期を縮めるなどの努力をしないとだめなんですよ。うちではワーク・ライフ・バランスなんて無理』、即ち、ワーク・ライフ・バランス実現推進なんて、できないと言われることがよくありました。

私自身、企業人だった頃は、若くて元気もあつたし、当時は幸か不幸か、定時に帰宅して誰かの世話をするという状況になかったので常に残業しがちでした。12時間近く勤務していた日も…。有休も取らず、当時の私は、『帰りたいけど帰れない』、『休みたいけど休めない』というのが口癖で、『定時には帰れない、有休は取れない』と思い込んでいたわけです。

その後、父を亡くした時、一人っ子で、なおかつ父親っ子だった私ですが、十分な看病もできず、死に目にも会えずという悲しい体験をしました。母がいたので、介護休業取得対象ではありませんでしたが、当時の私はマネージャーで、部下も数名いて、大きなプロジェクトを任されていたので、有休を取

り看病することなんて到底できないと思い込んでいたのです。

人が「できない」と思っていることを「できる」と思えるようになるには、“感じる”というプロセスが必要かもと言った友人がいました。私自身、思うように父を看病できず、死に目にも会えず、つらく悲しい思いを感じたからこそ、「できない」ではなく、「できる」ことだったんだと痛感しました。当時の私は、『帰れない、休めない』と言っていたのですが、実は、『帰ろうとしない、休もうとしない』自分がいたことに気づいたのです。

また、某企業の社長は、『社員たちが、「できない」と言うけれど、なぜできないのか、その理由を挙げて一つずつ解決していけば、「できる」ようになる筈だ。できないことなんてあまりないんだよ』と話しておられました。

皆さんも、「できない」と思われていることがあれば、その理由を挙げ、解決されてみてはいかがでしょうか？ そうすれば、今は、「できない」と思われていることも「できる」ようになるのではないのでしょうか。

